ストックボイス

『バロンズ拾い読み』2016 年 12 月 13 日号

2016 年 12 月 13 日（火）午後 10 時 13 分ごろから（スタジオ/電話）

エグゼトラスト株式会社

『バロンズ拾い読み』編集人

川田重信

原稿要旨

4. The Trader　高揚感が経済効果を増幅　【米国株式市場】
トランプ政権の負け組銘柄にも光が当たる一方で、銀行株は調整の恐れ

村田

先週、主要 3 指数がそろって史上最高値を更新。昨日はさすがに買い疲れか？ダウは上げましたが他の主要指数は一服です。

ちなみに先週、ダウ工業株 30 種平均（NY ダウ）は 3.1%上昇して 1 万 9756 ドル 85 セント、2 万ドルの大台が間近。

S&P500 指数は 3.1%高の 2259.53、出遅れていたナスダック総合指数も 3.6%上昇の 5444.50。

小型株のラッセル 2000 指数は 5.62%上昇して 1388.07。

川田

ダウは 5 週続伸、それ以外の主要素数（S&P500 指数、ナスダック総合、ラッセル 2000）は大統領選挙の週から 3 週続伸、1 週下がって先週はまた上昇。

年初来の上昇率：ダウ 13.4%、S&P500 指数 10.6%、ナスダック総合 8.5%、ラッセル 2000 は＋22.5%

先週、一週間の上昇幅では、金融セクターが 4.8%で依然トップ。最後尾にいたハイテクセクターが 4.2%とわずかな差で 2 位の上昇。ヘルスケアセクターもトランプ氏の薬価に対する批判的な発言を受けて水曜日に 2.2%下落したが、前週比で上昇。

主要指数（ダウ、S&P500 指数、ナスダック総合）

月曜日から金曜まで 5 日連続で上昇。これ以前に週間ですべての主要指数が 5 日間上昇したのは 2011 年 9 月 12（月）から 16 日（金）まで。

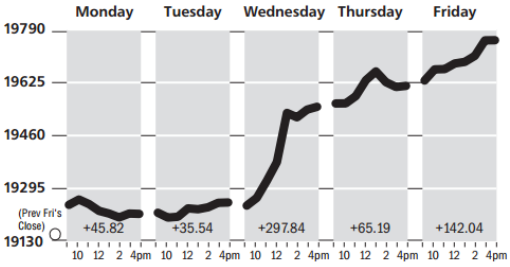
12 月 12 日現在

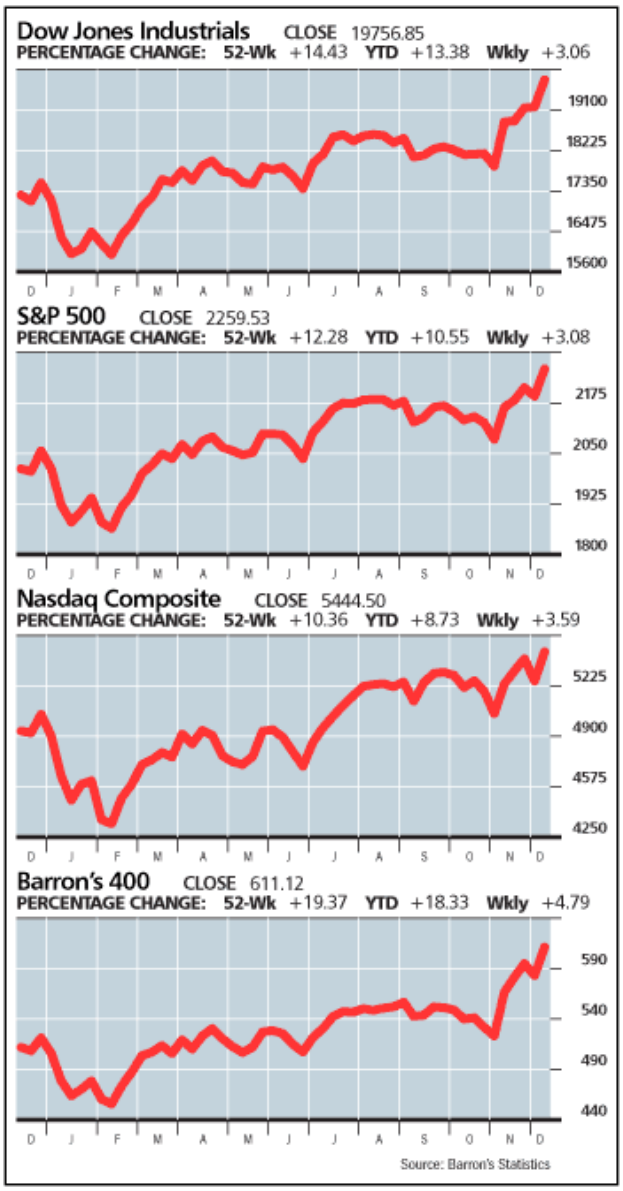
Index	Last	High	Low	Chg.	Chg. %	Time
Dow 30	19,796.43	19,824.59	19,747.74	+39.58	+0.20%	12/12
S&P 500	2,256.96	2,264.03	2,252.37	-2.57	-0.11%	12/12
Nasdaq	5,412.54	5,434.90	5,394.42	-31.96	-0.59%	12/12
SmallCap 2000	1,375.20	1,391.54	1,370.93	-13.46	-0.97%	12/12

Index	Daily	1 Week	1 Month	YTD	1 Year	3 Years
Dow 30	0.20%	2.83%	4.92%	13.61%	13.98%	25.65%
S&P 500	-0.11%	2.02%	4.29%	10.42%	11.62%	27.13%
Nasdaq	-0.59%	1.49%	3.72%	8.09%	9.30%	35.28%
SmallCap 2000	-0.97%	1.78%	5.83%	21.33%	23.31%	24.22%

FIVE-DAY DOW COMPOSITE

Rally Mode: The Dow gained 3.1% last week, its fifth straight week of gains. Goldman Sachs rose 8.3%, while Wal-Mart Stores fell 1.1%.





1. Get Ready for Dow 20,000　ダウ工業株 30 種平均 2 万ドルに備える　【NY ダウ】

資本財と金融の比重が高い NY ダウがトランプ政権下で上昇する可能性

村田

ところで主要指数の中では小型株のラッセル 2000 のパフォーマンスが突出(年初来 22%)しているが、それ以外ではダウ工業株 30 種平均のパフォーマンスがいい。とりわけ大統領選挙後の値上がりが大きい。そして節目の 2 万ドルにいよいよ近づいていることもあり関

係者の間では話題の中心だ。日ごろ川田さんはマーケットの中心的な指数はダウではなくS&P500指数と言っていたと理解しているが。

川田

その通り、しかし、この指数が投資家の間では長らく中心的指標だったこともありいまだに話題性はある。そして今週の『バロンズ拾い読み』のカバーはこのダウの記事だ。

「大統領選翌日の11月9日（18332）から先週末（19756）までダウ平均は1400ドルあまり上昇。1日平均の上げ幅は65ドル程度で、このペースで上昇すれば4日で2万ドルの節目を超える。11月22日に初めて1万9000ドルを突破してから1000ドル上昇するのにわずか17日しかかからない？」こんなコメントがでるほどだ。

ただし、振り返ると、ダウが1万8000ドル（2014年11月ごろ）から1万9000ドルまでは483日と、約2年かかっている。リーマン・ショック後の安値を付けた2009年3月9日以降では1000ドルの上昇期間で最長だった。仮に17日間で1000ドル上げれば金融危機後で最短。もちろん1万ドルから1000ドルあがるのと2万ドルから1000ドル上昇ではその上昇率はずいぶん異なるが、それでも心理的なインパクトはやはりあるのだろう。（私は全く気にしていないが、、）

このカバー記事の中で言及していたが「ダウ2万ドルと3万ドルへの道のり」と気の速い話でも出ていた。

つまり、金曜日の引け値は 2 万ドルまであと 1 %。1982 年から 2000 年の IT バブル崩壊までに指数は 10 倍に。もし 1999 年から直近まで年率 4%の上昇率だったが、この率で上が続けるなら 3 万ドルは 2027 年。あと 11 年？

これも日本人にこういう株価の天井の高さを語るとお笑いの対象だが、決してそうではないことに早く気付いてほしい。（ここら辺から気分が滅入ってくる、私の場合！！）

村田

ところで、過去 1 カ月で指数を牽引したのは、ゴールドマン・サックス・グループ（GS）、JP モルガン・チェース（JPM）、アメリカン・エキスプレス（AXP）、損害保険大手のトラベラーズ（TRV）の金融 4 銘柄とのことだが？

川田

＊ゴールドマン・サックスは 33%上昇＝NY ダウ上昇分の約 3 分の 1 に貢献。年初来では、ゴールドマン・サックス、医療保険・管理医療サービス大手のユナイテッドヘルス（UNH）、キャタピラー（CAT）が主導＝3 社で上昇分の約 40%。

村田

30 銘柄のうちわずか 4 銘柄で 4 割の値上がり。ここあたりのいびつさが問題なのか？

川田

全くその通りと思う。

＊NY ダウには、時価総額加重ではなく株価の単純平均という指数計算上の問題もある。例えば、NY ダウでは時価総額世界最大のアップル（直近株価は 113 ドル）の影響が、トラベラーズ（119 ドル）より小さい。

＊S&P500 指数で時価総額上位 7 銘柄のうち、NY ダウに採用されているのは 3 銘柄だけ。NY ダウで重要な銘柄（ゴールドマン・サックス、複合企業のスリーエム（3M）、ユナイテッドヘルス、航空機大手のボーイング（BA）、ホームデポ）は S&P500 指数では時価総額上位 25 位にも入っていない。

＊ハイテク銘柄：影響力が最も大きいのは IBM（IBM）で、ネットワーク機器大手のシスコシステムズ（CSCO）、マイクソフト（MSFT）、インテルを合わせたよりも影響力がある。IBM の株価は 166 ドルで、2013 年の 215 ドルを大きく下回っており、NY ダウの足を引っ張っている。

さらに言えば、

＊NY ダウを対象の ETF、SPDR ダウ・ジョーンズ・インダストリアル・アベレージ（DIA）の規模は 140 億ドル（1.6 兆円）。一方で SPDR S&P 500（SPY）の 2180 億ドル（25 兆円）、金額では DIA は SPY の 15 分の 1

＊NY ダウ構成銘柄の平均株価収益率（PER）は、2016 年予想が 18 倍、2017 年予想が 16 倍で割高ではない。S&P500 指数の 2017 年予想 PER の 17 倍。これはフェイスブック（FB）やアマゾン・ドット・コムなどの高 PER 銘柄が NY ダウにないことも一因。

＊資本財や金融の割合が合わせて 38%（VS　S&P500 指数では 25%）。

村田

一番指標性のある S&P500 指数は年間 4%程度、つまり 10 数銘柄が入れ替え対象となっている。ダウはどうか？

■　構成銘柄入れ替え

＊NY ダウの構成銘柄も入れ替えは激しい。＝最近では 2015 年にアップルが加わって通信大手の AT&T（T）が外れた。過去 10 年で 10 銘柄。1 年で平均 3 銘柄なら年に 10%だ、相当激しい。これが時代の変化に指数の構成銘柄が追随、先取り？結果的に指数の寿命を長持ちさせているのではないか？

ただしその指数の算出方法のため、例えばアルファベット（GOOG、株価は 789 ドル）やアマゾン・ドット・コム（株価は 768 ドル）といった値嵩株を指数に追加するのは指数のゆがみが大きくなりすぎるために困難だ。もし指数に組み入れるなら大幅な株式分割でもして株価を大きく下げないと、指数としての指標性に疑問が出てくるはずだ。

村田

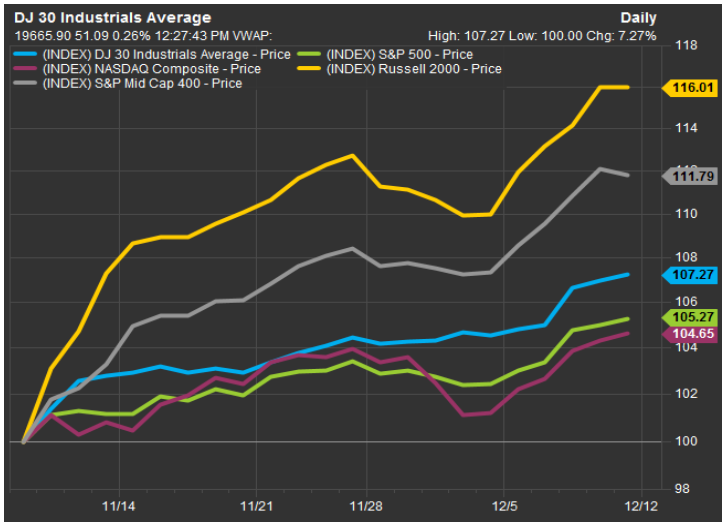
それらをわきまえたうえで NY ダウの追加候補銘柄はどうか？

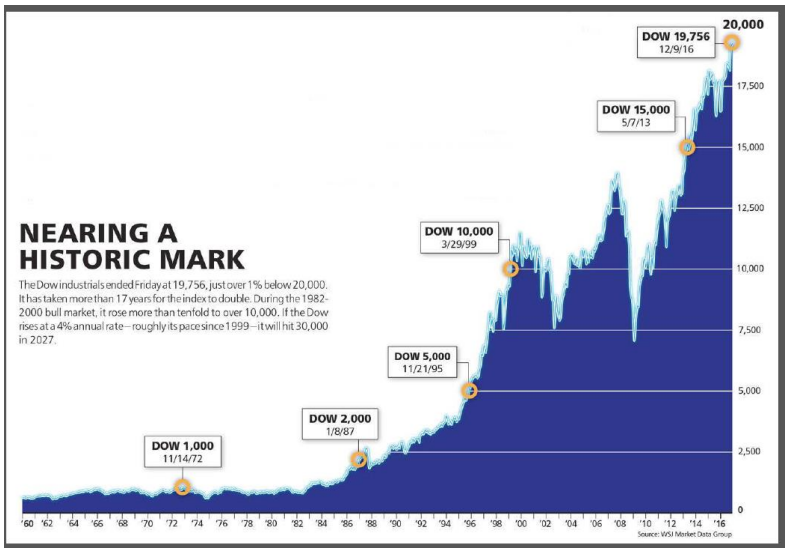
川田

バークシャー・ハサウェイ（BRK.B）とフェイスブックは明確な選択肢で、ケーブルテレビ最大手のコムキャスト（CMCSA）も可能性。一方で、外れる可能性が高いのは、トラベラーズ、シスコシステムズ、インテルだ。トラベラーズの時価総額は NY ダウの中で最小で、残る 2 社は株価が小さく 10 年前と比べると重要度が低下。

結論としていえることは、NY ダウは時代錯誤で、風変りで、ばかにされているかもしれないが、それでも生き残っている。トランプ政権下で資本財企業と金融企業の業績が好調になれば、NY ダウの人気が高まる可能性がある。

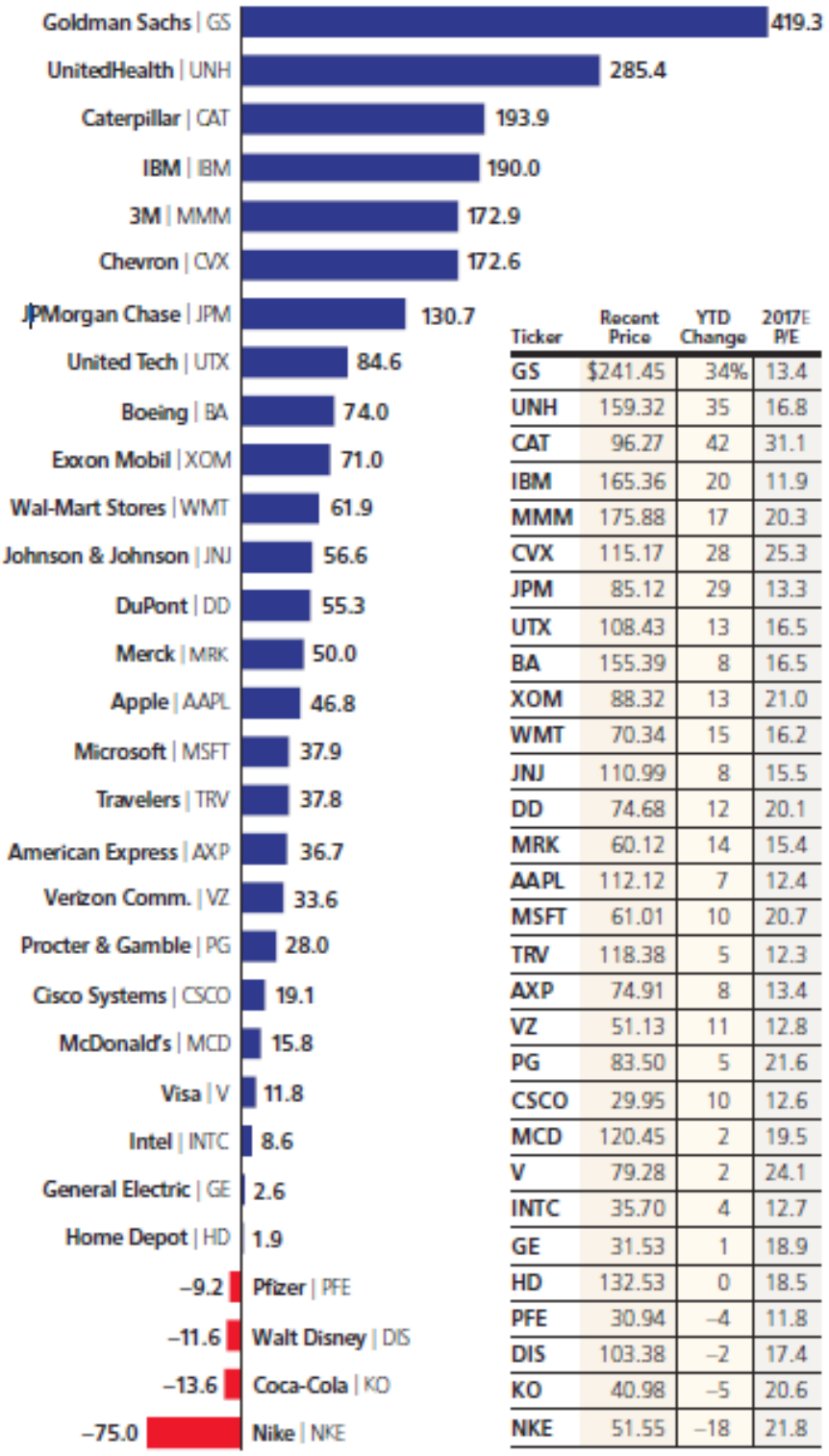
主要株価指数（11 月 8 日～12 月 9 日）





ダウ：個別銘柄の寄与度（昨年末（17425）から先週木曜日（12 月 8 日 19614 ドル）まで 12.5%の上昇率：ゴールドマン・サックス、ユナイテッドヘルス、そしてキャタピラーがカギ！

Dow Jones Industrial Average YTD Contributions



Through 12/8. E=Estimate

Ticker	Recent Price	YTD Change	2017E P/E
GS	$241.45	34%	13.4
UNH	159.32	35	16.8
CAT	96.27	42	31.1
IBM	165.36	20	11.9
MMM	175.88	17	20.3
CVX	115.17	28	25.3
JPM	85.12	29	13.3
UTX	108.43	13	16.5
BA	155.39	8	16.5
XOM	88.32	13	21.0
WMT	70.34	15	16.2
JNJ	110.99	8	15.5
DD	74.68	12	20.1
MRK	60.12	14	15.4
AAPL	112.12	7	12.4
MSFT	61.01	10	20.7
TRV	118.38	5	12.3
AXP	74.91	8	13.4
VZ	51.13	11	12.8
PG	83.50	5	21.6
CSCO	29.95	10	12.6
MCD	120.45	2	19.5
V	79.28	2	24.1
INTC	35.70	4	12.7
GE	31.53	1	18.9
HD	132.53	0	18.5
PFE	30.94	–4	11.8
DIS	103.38	–2	17.4
KO	40.98	–5	20.6
NKE	51.55	–18	21.8

Sources: WSJ Market Data Group; Thomson Reuters

過去のNYダウ平均の採用・除外銘柄は？

入替日	NYダウ平均採用銘柄	NYダウ平均除外銘柄
2004/4/8	エーアイジー（AIG）	イーストマン・コダック（EK・上場廃止）
	ファイザー（PFE）	インターナショナル・ペーパー（IP）
	ベライゾン・コミュニケーション（VZ）	エーティー・アンド・ティー（T）
2008/2/19	バンク・オブ・アメリカ（BAC）	ハネウェル・インターナショナル（HON）
	シェブロン（CVX）	アルトリア・グループ（MO）
2008/9/22	クラフト・フーズ（KRFT）	エーアイジー（AIG）
2009/6/8	シスコシステムズ（CSCO）	シティグループ（C）
	トラベラーズ・カンパニーズ（TRV）	ゼネラルモーターズ（GM）
2012/9/24	ユナイテッドヘルス・グループ（UNH）	クラフト・フーズ（KRFT）
2013/9/23	ゴールドマン・サックス（GS）	アルコア（AA）
	ナイキ（NKE）	バンク・オブ・アメリカ（BAC）
	ビザ（V）	ヒューレット・パッカード（HPQ）
2015/3/19	アップル（AAPL）	エーティー・アンド・ティー（T）

（出所）マネックス証券作成

※エーティ・アンド・ティーは除外銘柄欄に2004年と2015年の2回記載されておりますが、これは2005年に当時ダウ平均採用銘柄だったSBCコミュニケーションズがエーティ・アンド・ティーを買収し、社名をエーティ・アンド・ティーに変更したことによるものです。

ダウが 1000 ドル上昇するのに要した日数

18000 ドルから 19000 ドルまで。483 日、約 2 年。最短は IT バブルのころ（1999 年 3 月 29 日に 1 万ドルをクリアーし、その後 24 取引日（1999 年 5 月 3 日）で 11000 ドルを超えた。

The Dow closed above 19,000 on Nov. 22 and took 483 trading days to span the 1,000-point bridge.

Trading sessions between 1000-point milestones	Dow's 1000-point milestone	Date of first close above 1000-milestone
24	11,000	5/3/1999
59	14,000	7/19/2007
85	7,000	2/13/1997
105	8,000	7/16/1997
108	18,000	12/4/2014
127	13,000	4/25/2007
139	16,000	11/21/2013
153	17,000	7/3/2014
182	9,000	4/6/1998
189	5,000	11/21/1995
226	6,000	10/14/1996
246	10,000	3/29/1999
483	19,000	11/22/2016
975	4,000	2/23/1995
1,080	3,000	4/17/1991
1,460	15,000	5/7/2013
1,879	12,000	10/19/2006
3,573	2,000	1/08/1987
21,652	1,000	11/14/1972

The broad-based rally has been supported by the expectation that Trump will unleash a raft of pro-business policies, including a roll back of regulations, tax cuts and fiscal spending. Signs that the market is already on a solid economic footing relative to other economies across the globe and comparatively better quarterly results from U.S. corporations isn't hurting.

<u>ダウ上昇の内容を精査すると＝ゴールドマン・サックスの上昇に尽きる！！（先週も本件言及）</u>

11 月 8 日引値（18333）から 12 月 8 日（木、19614）までダウは 1282 ドル＝7.0%上昇。

この間のダウ上昇の原動力は？ゴールドマン・サックス（408 ドル/1282=31%）。次は外医療保険のユナイテッドヘルス(UNH)の 112 ドル（8.7%の寄与）でその寄与度は GS の 1/4 程度。

ちなみに時価総額最大のアップルは株価の動きも少ないが寄与度もわずか。

<u>ダウの指数のしての指標性には常に指数の算出方法がもたらすいびつさ？に注意！</u>

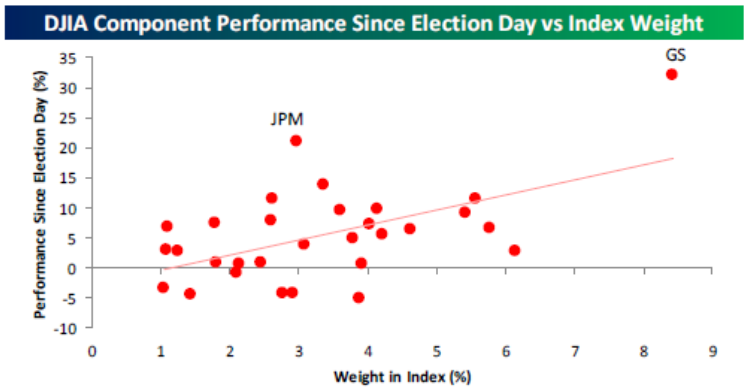
While much of the strength in the DJIA has been chalked up to the index being full of old-line industrial stocks that stand to benefit from a Trump victory, practically all of the outperformance can be summed up in two words – Goldman Sachs (GS). Call it the "Goldman Sachs Industrial Average" if you want!

Because the Dow is price weighted, the stocks with the highest share prices have the largest weighting, and at $241/share, Goldman has an 8.4% weighting in the Dow. With a 32% gain since the election, that has resulted in a gain of 408 Dow points. The next biggest contributor in the Dow since the election is UnitedHealth (UNH) at 103 points added.

DJIA Components Since Election Day (thru 12/8)

			Price			Index	Contribution to DJIA
Ticker	Name	Sector	11/8	12/8	Change	Weight (%)	Gain (Points)
GS	Goldman Sachs	Financials	181.92	241.45	32.2	8.43	408
MMM	3M	Industrials	171.03	175.88	2.8	6.14	33
IBM	Int'l Business Machines	Technology	155.17	165.36	6.7	5.77	70
UNH	UnitedHealth Group	Health Care	142.90	159.32	11.6	5.56	112
BA	Boeing	Industrials	142.20	155.39	9.2	5.43	90
HD	Home Depot	Cons. Discret.	124.25	132.53	6.4	4.63	57
MCD	McDonald's	Cons. Discret.	114.11	120.45	5.7	4.21	43
TRV	Travelers	Financials	108.01	118.38	9.7	4.13	71
CVX	Chevron	Energy	107.29	115.17	7.3	4.02	54
AAPL	Apple	Technology	111.06	112.12	0.8	3.91	7
JNJ	Johnson & Johnson	Health Care	117.05	110.99	-5.1	3.88	-42
UTX	United Technologies	Industrials	103.37	108.43	4.9	3.79	35
DIS	Walt Disney	Cons. Discret.	94.38	103.38	9.6	3.61	62
CAT	Caterpillar	Industrials	84.68	96.27	13.9	3.36	79
XOM	Exxon Mobil	Energy	85.31	88.32	3.8	3.08	21
JPM	JPMorgan Chase	Financials	70.03	85.12	21.1	2.97	103
PG	Procter & Gamble	Consumer Staples	87.46	83.50	-4.3	2.92	-27
V	Visa	Technology	82.88	79.28	-4.1	2.77	-25
AXP	American Express	Financials	67.07	74.91	11.5	2.62	54
DD	du Pont	Materials	69.26	74.68	7.9	2.61	37
WMT	Wal-Mart	Consumer Staples	69.79	70.34	0.9	2.46	4
MSFT	Microsoft	Technology	60.47	61.01	0.8	2.13	4
MRK	Merck	Health Care	60.51	60.12	-0.9	2.10	-3
NKE	NIKE	Cons. Discret.	51.08	51.55	0.8	1.80	3
VZ	Verizon	Telecom Services	47.65	51.13	7.4	1.79	24
KO	Coca-Cola	Consumer Staples	42.88	40.98	-4.4	1.43	-13
INTC	Intel	Technology	34.74	35.70	2.8	1.25	7
GE	General Electric	Industrials	29.42	31.53	7.0	1.10	14
PFE	Pfizer	Health Care	30.00	30.94	3.1	1.08	6
CSCO	Cisco Systems	Technology	31.00	29.95	-3.4	1.05	-7
	Average				**5.5**		
	Dow Jones Industrial Average		**18,333**	**19,615**	**7.0**		**1282**

各30銘柄の指数内のウエイティングとパフォーマンスの関係＝ゴールドマン(GS)の突出ぶりが実感！



4. The Trader　高揚感が経済効果を増幅　【米国株式市場】
トランプ政権の負け組銘柄にも光が当たる一方で、銀行株は調整の恐れ

村田

ところで今回のダウの上昇に大きく貢献しているのが金融銘柄だが、このセクターに関する分析もあるのか？

川田

4 番の【米国株式市場】の後半で、このあとも金融銘柄がダウを押し上げる主役になるのは材料不足との解説があった。

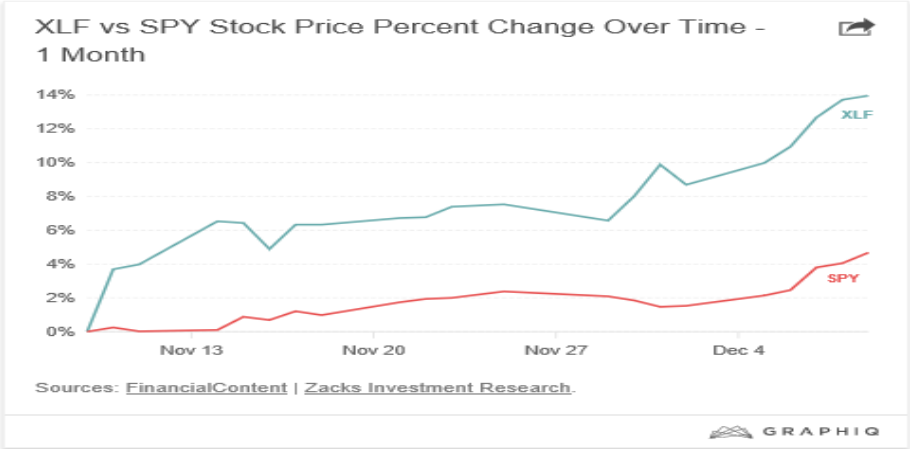
ダウ上昇の主役の金融銘柄の考察

■　銀行株にも重力は働くバロンズ拾い読み』【米国株式市場】

大統領選以降、SPDR S&P バンク（KBE）は 26%上昇。S&P500 指数は 5.8%。

＊金融株のベータ（指数に対する株価のボラティリティを示す指標）が、今年始めの約 1 で現在は 1.4 付近。

総資産が 500 億ドル以上の銀行の中でベータが低い銘柄として、JP モルガン・チェース（JPM、ベータは 1.46）、バンク・オブ・ニューヨーク・メロン（BK、同 1.42）、キャピタル・ワン・ファイナンシャル（COF、同 1.44）、シチズンズ・フィナンシャル・グループ（CFG、同 1.43）を推奨する。一方で、KBW では、モルガン・スタンレー（MS、同 1.92）とシティグループ（C、同 1.85）の投資判断をマーケットパフォームとしている。



Financial Sector SPDR ETF

Top Ten Holdings*

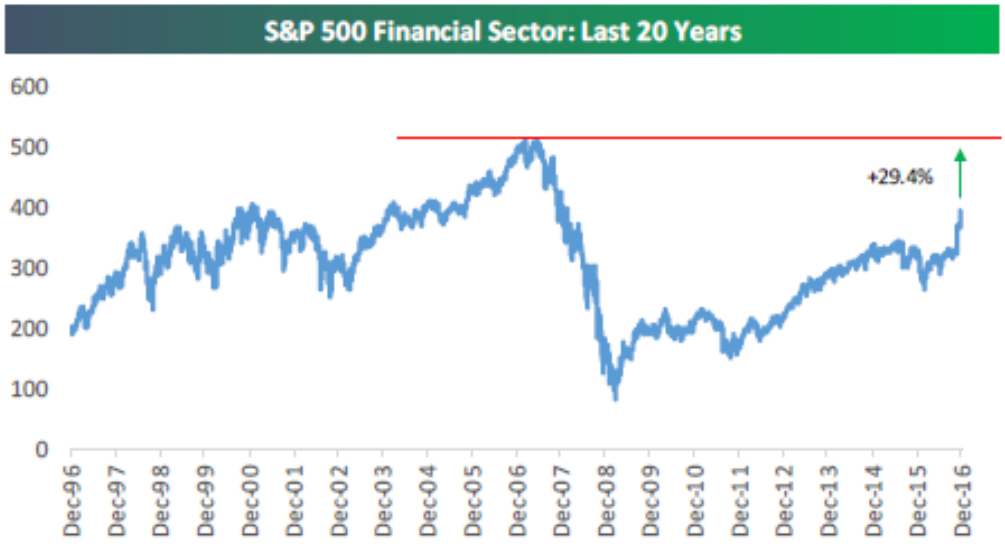
XLF - FINANCIAL

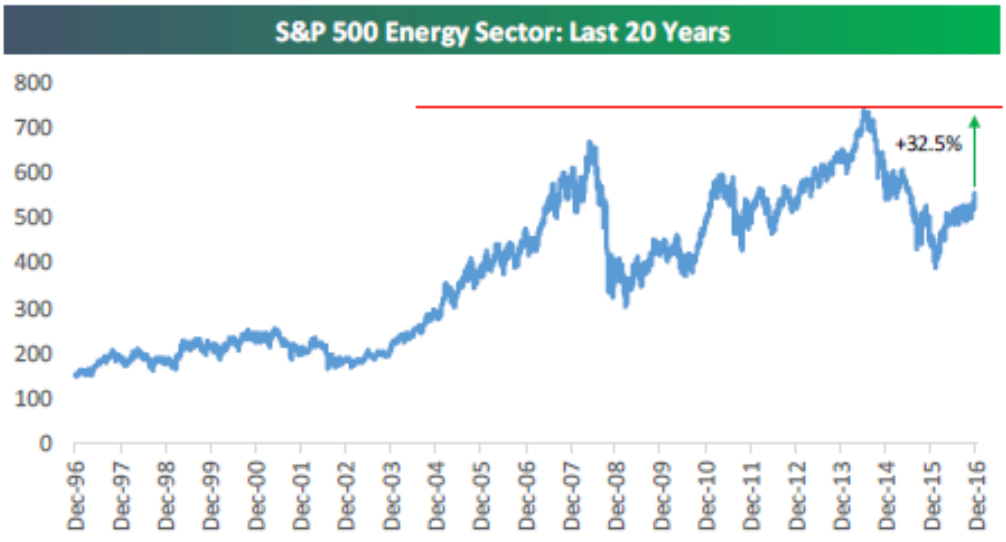
	Company Name	Symbol	Weight
1	Berkshire Hathaway B	BRK.b	10.75%
2	JP Morgan Chase	JPM	10.42%
3	Wells Fargo	WFC	8.64%
4	Bank of America	BAC	7.75%
5	Citigroup	C	5.89%
6	Goldman Sachs	GS	2.97%
7	US Bancorp	USB	2.87%
8	American Intl Group	AIG	2.32%
9	Morgan Stanley	MS	2.19%
10	Metlife	MET	2.17%

** Components and weightings as of 11/30/16.*
Please see website for daily updates. Holdings subject to change.

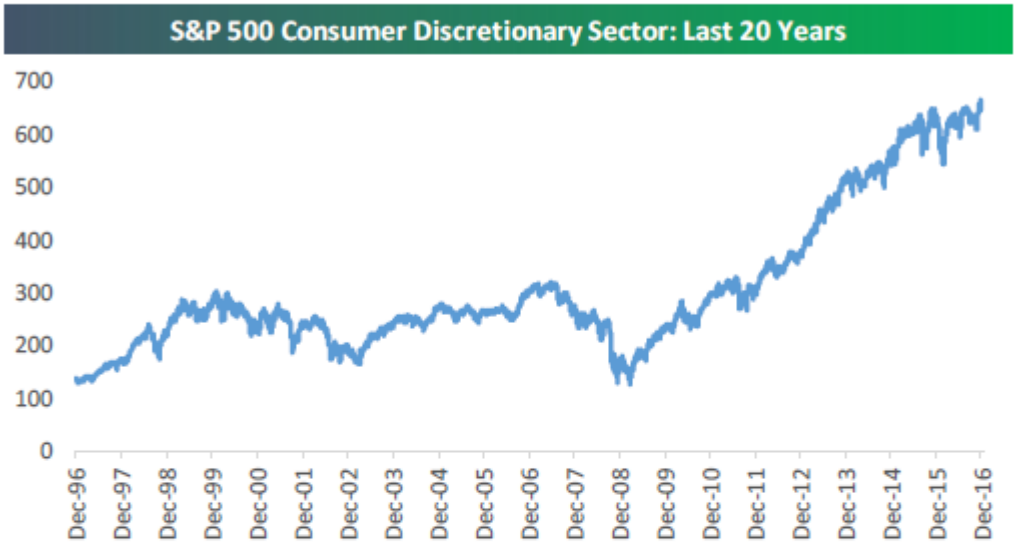
S&P500　セクター別パフォーマンス：金融とエネルギーは谷が深かった分、新値まで天井が高い

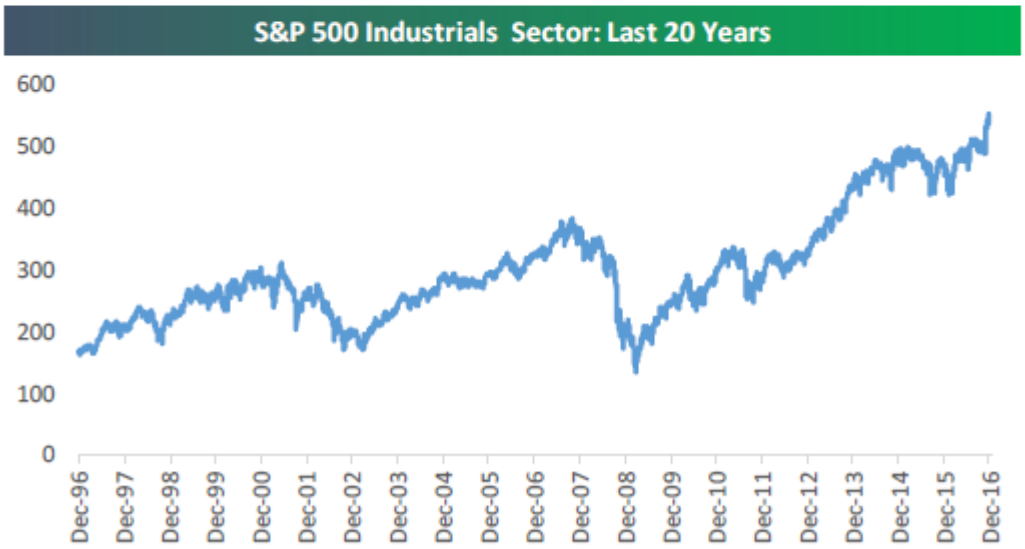
- The Financial and Energy sectors are the other two that have broken out to new 52-week highs recently, but as shown below, they are still very far from making new all time highs.
- Both sectors still need to gain roughly 30% to make new highs, and that means that there are plenty of investors that own shares that will be looking to sell once they get back to even. This means there's plenty of "supply" on the market that acts as resistance. That being said, the fact that they're not at new highs makes adding exposure to them easier for investors to stomach.





- The trading range charts on the prior page were one-year charts, but long-term charts are worth looking at as well to gain more perspective.
- Consumer Discretionary and Industrials are two of the four sectors that have broken out to new 52 -week highs since the election. These two sectors have also broken out to new all-time highs, so there is no supply on the market for them at these levels.





村田

ところで、12 月はマーケットがよく上がる！中でも今週は一年のうちで一番あがる時期の１つか？

川田

11 月下旬のサンクスギビングあたりが 1 年で一番上がりやすい時期だが、12 月中旬、下旬もまた上がりやすい。

ただし今回はトランプ相場でいまが活況。

さらに個人所得税の減税の可能性もあり、その場合にはいま売るより来年まで待ったほうがいいとの思惑も個人投資家にはある。

そうなると機関投資家はそれを先回りして、いまの吹いたところを利食うか？

ただし債券から株式への資産移動、グレートローテションの真っ盛りかもしれない。そうなると安易に利食って上昇相場を取り逃がすかもしれない。

村田

いずれにしてもいろいろ考えながらの年末、年始になるはずだ。

5. Up & Down Wall Street　FBI が電子メール疑惑への捜査を再開 【コラム】

米国株にとって最高の 5 日間、政治ニュースで台無しになる恐れ

LPL ファイナンシャルのストラテジスト、1950 年以来のデータで、10 月 27 日の終値で S&P500 種指数を買って次の 5 営業日保有し続けると、平均 1.7%のリターン。これは年

間でも 5 日間としては最高の上昇率であり、「サンタクロース・ラリー（クリスマス頃から年明けにかけて株価が上昇する現象）」をも上回っている。

THE NEXT FIVE DAYS ARE HISTORICALLY STRONG

S&P 500 Average 5-Day Returns (1950–2015)

Day of Month	Jan	Feb	Mar	Apr	May	June	July	Aug	Sep	Oct	Nov	Dec
1	-	-0.1%	0.4%	0.2%	0.4%	0.0%	0.3%	0.2%	0.3%	0.6%	0.7%	0.5%
2	-0.1%	-0.2%	0.1%	0.0%	-0.1%	-0.2%	0.3%	-0.3%	0.0%	-0.1%	0.4%	0.0%
3	0.0%	-0.3%	0.0%	0.3%	-0.4%	-0.1%	-0.1%	-0.7%	0.0%	0.0%	0.2%	0.4%
4	0.0%	0.0%	0.1%	0.6%	-0.5%	0.0%	-	-0.1%	-0.3%	0.6%	0.3%	0.1%
5	-0.2%	0.1%	0.4%	0.7%	-0.1%	-0.1%	0.2%	0.1%	-0.5%	0.1%	-0.3%	0.0%
6	-0.4%	0.1%	0.4%	0.3%	0.1%	0.0%	0.5%	0.1%	-0.3%	0.0%	-0.1%	0.0%
7	-0.2%	0.1%	-0.1%	0.4%	0.0%	-0.1%	0.3%	-0.1%	0.2%	0.6%	0.4%	-0.3%
8	0.1%	0.1%	0.2%	0.6%	-0.2%	0.1%	0.2%	0.0%	0.0%	0.2%	0.2%	-0.4%
9	0.3%	0.0%	0.7%	0.7%	0.0%	0.6%	0.4%	0.1%	0.4%	0.5%	0.1%	0.1%
10	0.3%	0.3%	0.8%	0.7%	0.0%	0.5%	0.7%	0.6%	-0.1%	0.4%	0.2%	0.1%
11	0.3%	0.0%	0.7%	0.9%	-0.2%	0.1%	0.0%	0.3%	0.2%	0.2%	-0.2%	0.3%
12	0.2%	0.2%	0.5%	0.2%	-0.3%	-0.1%	-0.2%	-0.1%	0.6%	-0.7%	-0.3%	0.1%
13	0.2%	-0.2%	0.7%	0.2%	-0.3%	-0.3%	0.4%	0.3%	0.2%	-0.2%	-0.3%	-0.1%
14	-0.2%	-0.4%	0.6%	0.7%	-0.5%	-0.1%	0.0%	0.0%	-0.3%	0.2%	-0.4%	0.5%
15	0.0%	-0.5%	0.2%	0.4%	-0.2%	0.0%	-0.3%	-0.2%	0.0%	-0.3%	-0.1%	0.9%
16	0.1%	-0.2%	0.5%	0.1%	-0.2%	0.0%	-0.6%	0.1%	-0.3%	-0.3%	0.1%	0.7%
17	0.0%	0.1%	0.3%	-0.1%	-0.5%	-0.4%	-0.5%	-0.2%	-0.2%	-0.1%	0.3%	0.7%
18	0.0%	0.0%	-0.1%	0.0%	-0.6%	-0.6%	-0.2%	0.0%	-0.5%	-0.5%	0.5%	0.6%
19	-0.4%	0.1%	0.1%	0.2%	0.0%	-0.6%	-0.1%	0.2%	-1.0%	-0.2%	0.9%	0.7%
20	0.3%	-0.2%	0.1%	0.2%	0.3%	-0.5%	0.0%	-0.1%	-0.7%	-0.7%	1.2%	1.0%
21	0.4%	-0.2%	0.1%	0.0%	-0.1%	-0.5%	0.1%	-0.3%	0.1%	-0.2%	0.7%	0.8%
22	0.5%	0.2%	0.3%	0.0%	0.2%	-0.3%	-0.2%	0.0%	-0.4%	0.3%	0.5%	0.8%
23	0.3%	0.3%	-0.2%	0.0%	0.3%	-0.3%	0.4%	-0.1%	-0.7%	0.3%	0.7%	0.7%
24	0.7%	0.4%	-0.3%	0.6%	0.3%	0.3%	0.8%	-0.2%	-0.3%	0.4%	0.4%	1.0%
25	0.9%	0.6%	0.1%	0.7%	0.6%	0.5%	0.3%	0.1%	0.2%	0.6%	0.0%	-
26	0.7%	0.2%	0.2%	0.2%	0.6%	0.6%	0.3%	0.0%	0.1%	1.1%	0.4%	1.3%
27	0.8%	0.4%	0.0%	0.3%	0.6%	0.7%	0.5%	0.0%	0.2%	**1.7%**	0.0%	0.6%
28	0.4%	0.6%	0.0%	0.7%	0.4%	0.5%	0.2%	-0.3%	0.4%	1.3%	0.4%	0.2%
29	0.1%	-0.7%	0.4%	0.4%	0.6%	0.7%	-0.3%	0.3%	0.5%	1.3%	0.8%	0.6%
30	0.5%	-	0.7%	0.4%	0.8%	0.7%	-0.3%	0.6%	0.4%	0.9%	1.1%	0.6%
31	0.2%	-	0.6%	-	0.6%	-	0.4%	0.3%	-	0.4%	-	0.1%

Source: LPL Research, FactSet 10/26/16